

# 大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)

## 1. 組織構成

看護学専攻(修士課程)は、基礎教育課程での教育研究を基盤とし、大学全体で蓄積した教育研究資源と大学が立地する地域を活用した教育研究を基盤として、看護学の専門性を深めるために、2コース、4分野を設置しています。

看護学専攻のコース及び分野・専門領域

コース	分野	専門領域
看護学	基礎看護学	看護医科学
		基礎看護学
	臨床看護学	急性期成人看護学
		慢性期成人看護学
		小児看護学
		母性看護学
		老年看護学
	地域看護学	精神看護学
		在宅看護学
		地域看護学
助産学	助産学	助産学

## 2. 専門領域および授業科目の概要

### 1) 専門領域

#### 看護学コース

##### 基礎看護学分野

看護医科学、基礎看護学の領域について教育を行います。最今、Evidence-based Nursing (EBN)が提唱され、看護の知識や技術に関する科学的な実証が不可欠となっています。基礎看護分野ではEBNの実践に必要な知識や技術の習得を目指します。

#### (1) 看護医科学領域

看護医科学においては、看護や介護における医学的な疑問点を、科学的に探求し、その原因や解決法を見いだすための研究を行います。具体的にはアンケート調査や実験研究を中心とした講義、演習、研究を行います。

#### (2) 基礎看護学領域

基礎看護学は、人間・環境・健康とのかかわりの中で看護を科学的に探究するとともに看護に関する問題を検証し、課題の明確化を行います。さらに、対象の安全性と安楽性を科学的に実証した看護技術の実践への活用方法をはじめ幅広く関心のある看護のテーマについて探求します。

#### 臨床看護学分野

急性期成人看護学、慢性期成人看護学、小児看護学、母性看護学及び老年看護学の領域について教育を行います。学部教育で得られた知識、技術及び深い倫理感を持って、さらに複雑な患者の状態、患者を取り巻く環境を客観的に分析、検討し、倫理と実践の関係を学習します。

#### (3) 急性期成人看護学領域

急性期成人看護学では健康危機の状況下やリハビリテーションの必要な対象者に適切な看護支援を提供するための基本となる知識・技術・態度について学びます。また、健康危機とそこからの回復を支援するため、成人看護領域に関する文献クリティークを行い、研究課題を明確化し、科学的プロセスに沿って、対象理解と効果的な看護実践を探求します。

#### (4) 慢性期成人看護学領域

慢性期成人看護学では、行動科学理論の基礎となる認知と行動の発達を学習し、成人の日常生活における人間らしさを科学的に理解します。また、慢性疾患療養過程の不確かさやその過程を軌跡としてとらえ、よりよい看護のあり方と方法を探求します。

これらのプロセスを通して、慢性期成人看護学領域の課題解決の方法と研究入門者としてのマナーや思考力を身につけられるよう支援します。

#### (5) 小児看護学領域

現代社会における小児と家族の問題について、医療、保健、福祉、教育などの側面から関連する学問分野の諸理論と看護への活用方

法を学びます。さらに小児保健、母子保健などの観点から小児看護を検討します。また、小児と家族に関する国内外の文献および研究論文をクリティークし、各自の研究課題を通して臨床での課題に効果的な支援を探究します。

#### (6) 母性看護学領域

女性の生涯を通じたリプロダクティブヘルス/ライツの視点から、生理的、心理・社会的な課題について、探求する能力を養います。具体的には、女性のライフサイクルにおける健康問題や臨床場面の問題について関連する理論を用いて分析し、自らの研究課題を明確にすることによって、女性とその家族の健康支援への貢献を目指して研究を進めていきます。

#### (7) 老年看護学領域

老年看護学領域における看護実践において、対象者自身の生活および生命の質が重要となります。老年期にある対象者の看護を行う上で必要な理論や実践について学習し、さらに、疾患や障害の発症を対象者自身において人生の中の転機とし、自らの人生の中で意味づけ、機能し、発達するための援助について探求します。

### 地域看護学分野

精神看護学、在宅看護学、地域看護学の領域について教育を行います。「病院完結型」から「地域完結型」医療への変化・対応が求められる昨今、住民の健康づくりや、病気と共存しながらQOLの維持・向上を目指し、住み慣れた地域や住まいでの生活を支える専門的知識を学修し、研究および実践のあり方を探求します。

#### (8) 精神看護学領域

精神の健康障害をもつ人々への、就労や生活を支えるケア体制の充実が求められています。あらゆる発達段階にある当事者や家族への看護課題に対して、理論の学修及び文献検討を通じて、各自のテーマを研究的に解決する研究遂行力を養います。特に、医療と福祉をつなぐ多職種連携によるケアシステムや、

AI時代を迎える次世代を志向した精神看護学のあり方についても探究します。

#### (9) 在宅看護学領域

在宅看護学に関連する理論モデルを学習し、在宅で暮らしている人々がより良い健康を保ち、その人らしい生活を送ることができるよう支援する能力を養います。在宅看護に関する諸制度と在宅ケアシステムを理解し、多様な職種と共に在宅療養者を支援するために、効果的な看護を探求します。講義や演習を通して、在宅看護に関する研究課題を見出し、研究計画を立て、自身の研究課題に沿った研究過程を体験します。

#### (10) 地域看護学領域

地域で生活するあらゆる人々を対象とし、その人らしい暮らしを支える健康の維持・向上を目標とした公衆衛生看護活動の在り方を検討します。具体的には、自身の実践を振り返り、課題を見出し、それを研究的に解決するための方法を検討します。また、各自の研究活動を通して公衆衛生看護実践における倫理観を高めると共に、課題解決課程で思考するための能力向上を図ります。

### 助産学コース

質の高い助産師を育成する教育制度（大学院教育）に対する社会のニーズと香川県における助産師養成数不足に対する地域ニーズに応えるため、令和2年度より新たに「助産学コース」を設置しました。

### 助産学分野

#### (11) 助産学領域

助産学コースでは、女性と家族の生涯にわたる健康支援をめざし、専門的知識に裏付けされた高度助産実践能力と周産期医療における高い倫理的感能力、およびマネジメント能力と研究教育力を備えた助産師を養成します。また、周産期医療分野のニーズと助産ケアの課題を適切に捉え、支援の在り方について探究します。

## 2) 基盤科目

本学の目指す高度職業実践者として必要なケア実践能力、管理的能力及び看護を提供する場を改革するための研究方法に関する能力を修得するために、基盤科目として、理論看護学、看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2、看護教育学、看護管理学、臨床科学、国際看護学特論、養護教育特論の9科目を開設しています。

各分野の授業科目と併せて学習することにより、効果的な学びが期待できます。

## 3. 履修方法等

### 1) 修業年限

修業年限は、2年を基準とします。

### 2) 修了要件

看護学コースの大学院生は、次の区分により30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

- i) 基盤科目5科目10単位以上
- ii) 専門科目のうち同一領域の特論・演習6単位
- iii) 専門科目のうちii)の科目以外の特論を2科目4単位
- iv) 研究科目10単位
- v) 養護教諭専修免許の取得を希望する場合は養護教育特論を必修科目とする。

助産学コースの大学院生は、上記i)～iv)に加え、専門科目(助産学)28単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

※看護学コースの学生は、専門科目(助産学)を履修できません。

### 3) 単位修得評価

成績評価は、次の基準で行います。

- 秀 : 90点以上
- 優 : 80点以上
- 良 : 70点以上
- 可 : 60点以上
- 不可 : 60点未満

## 4) 香川大学大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)における入学以前既修得単位認定について

入学前既修得単位の認定に関しては、別途定めます(「学則・規程」)。

## 4. 学位の授与

学位は、修士(看護学)とします。修士の学位は、大学院(修士課程)に2年以上在籍し、授業科目について看護学コースでは30単位以上、助産学コースでは58単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、特に優れた研究業績を上げた者については、上記在学期間を1年以上とすることがあります。

## 6. 2021 年度授業科目および担当教員

区分	授業科目	履修年次	単位	担当教員	
基盤科目	理論看護学*	1・2	2	前川 泰子、西村 亜希子、金正 貴美	
	看護倫理学*	1・2	2	松本 啓子、山本 美輪、清水 裕子、辻 京子	
	看護研究方法論 1*	1・2	2	谷本 公重、山本 美輪、石上 悦子	
	看護研究方法論 2*	1・2	2	市原 多香子、芳我 ちより、宮武 伸行	
	看護教育学	1・2	2	清水 裕子、渡邊 久美、芳我 ちより	
	看護管理学	1・2	2	前川 泰子、川田 紀美子	
	臨床科学	1・2	2	藤井 豊、塩田 敦子、筒井 邦彦	
	国際看護学特論	1・2	2	谷本 公重、辻 京子、近藤 麻理	
	養護教育特論	1・2	2	松本 啓子、金正 貴美	
専門科目	看護医科学特論	1	2	藤井 豊、塩田 敦子、筒井 邦彦	
	基礎看護学特論	1	2	前川 泰子、西村 亜希子	
	急性期成人看護学特論	1	2	市原 多香子	
	慢性期成人看護学特論	1	2	清水 裕子	
	小児看護学特論	1	2	谷本 公重	
	母性看護学特論	1	2	川田 紀美子、石上 悦子	
	老年看護学特論	1	2	山本 美輪	
	精神看護学特論	1	2	渡邊 久美	
	在宅看護学特論	1	2	松本 啓子	
	地域看護学特論	1	2	芳我 ちより、辻 京子	
	看護医科学演習	1	4	藤井 豊、塩田 敦子、筒井 邦彦	
	基礎看護学演習	1	4	前川 泰子、西村 亜希子	
	急性期成人看護学演習	1	4	市原 多香子	
	慢性期成人看護学演習	1	4	清水 裕子	
	小児看護学演習	1	4	谷本 公重	
	母性看護学演習	1	4	川田 紀美子、石上 悦子	
	老年看護学演習	1	4	山本 美輪	
	精神看護学演習	1	4	渡邊 久美	
	在宅看護学演習	1	4	松本 啓子	
地域看護学演習	1	4	芳我 ちより、辻 京子		
専門科目(助産学)	基礎助産学	助産学特論Ⅰ(助産学概論)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子
		助産学特論Ⅱ(リプロダクティブヘルスと権利)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子
		助産学特論Ⅲ(周産期学婦人科学)	1	2	金西 賢治、田中 宏和、花岡 有為子
		助産学特論Ⅳ(胎児学・新生児乳幼児学)	1	1	日下 隆、安田 真之、岡田 仁、岩瀬 孝志、下野 隆一
		助産学特論Ⅴ	1	1	金西 賢治、田中 宏和、花岡 有為子

		(薬理・臨床検査学)			日下 隆、安田 真之、岡田 仁、岩瀬 孝志
専門科目 (助産学)	助産診断 ・ 技術学	助産診断学Ⅰ(妊娠期)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子
		助産診断学Ⅱ(分娩期)	1	1	金西 賢治、田中 宏和、花岡 有為子、 川田 紀美子、石上 悦子
		助産診断学Ⅲ(産褥期、新生児・ 乳幼児)	1	1	日下 隆、安田 真之、岡田 仁、岩瀬 孝志、 下野 隆一、川田 紀美子、谷本 公重、 石上 悦子
		周産期ハイリスクケア	1	1	金西 賢治、田中 宏和、花岡 有為子、 日下 隆、安田 真之、岡田 仁、岩瀬 孝志、 下野 隆一、川田 紀美子、石上 悦子
		助産診断学演習Ⅰ(妊娠期)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
		助産診断学演習Ⅱ (分娩期・産褥期)	1	2	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
		助産診断学演習Ⅲ (新生児・乳幼児)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳、 谷本 公重
	子地域 保健母	地域母子保健学特論	2	1	川田 紀美子、芳我 ちより、辻 京子、 石上 悦子
	助産管理	助産業務管理学特論	2	1	川田 紀美子、石上 悦子
		医療福祉経営論	2	1	川田 紀美子、芳我 ちより、谷本 公重、 辻 京子
	助産学実習	助産学実習Ⅰ	1	1	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
		助産学実習Ⅱ	1	8	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
		助産学実習Ⅲ(助産管理)	1	1	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
		地域母子保健学実習	2	1	川田 紀美子、石上 悦子、小松 千佳
研究科目	特別研究	2	10	各指導教員	

\* 受講推奨科目

看護学コースの学生は、専門科目(助産学)を履修できません。